

【気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係】

ISAAC study による気管支喘息とアレルギー性鼻炎 の疫学的な調査

出典	アレルギー・免疫(1344-6932)10巻10号 Page1282-1292(2003.09) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004069149)		
著者	久保田 典里子 他		
調査地域	福岡市の無作為抽出された小学校 36 校、中学校 14 校		
調査時期	1995 年		
調査対象	小学 1 年生、中学 2 年生		
依頼数	小学 1 年生 : 3,137 人、中学 2 年生 : 3,004 人		
回収数	小学 1 年生 : 2,901 人 (男子 : 1,464 人、女子 : 1,437 人) : 91.4% 中学 2 年生 : 2,831 人 (男子 : 1,452 人、女子 : 1,379 人) : 94.2%		
有効回答数	—		
診断方法	ISAAC		
有症率	小学 1 年生	1995 年、	2002 年
	喘鳴 (既往) :	33.7%、	35.7%
	喘鳴 (現症) :	17.3%、	17.9%
	1 年間の発作なし :	0.1%、	5.9%
	夜間睡眠障害あり :	5.5%、	6.3%
	会話困難な重症喘鳴 :	1.8%、	1.7%
	医師による診断の既往 :	18.2%、	22.7%
	運動時の喘鳴 :	5.3%、	5.1%
	夜間の咳嗽 :	9.5%、	12.9%

中学2年生	1995年、	2002年
喘鳴（既往）：	26.8%、	39.6%
1年以内の喘鳴：	13.4%、	13.0%
1年間の発作なし：	5.2%、	13.6%
夜間睡眠障害あり：	3.3%、	3.2%
会話困難な重症喘鳴：	2.1%、	1.5%
医師による診断の既往：	18.9%、	19.9%
運動時の喘鳴：	27.3%、	23.5%
夜間の咳嗽：	14.0%、	14.2%

調査概要

ISSACにより全世界で行われた第I相試験による論文。世界と比較し、喘息、アレルギー性鼻炎は平均より高率であり、アジアで最も高かった。